



玉川野毛町公園 拡張事業基本設計書〈概要版〉



世田谷区
令和5年2月

1. 公園の概要

(1) 都市公園の概要

<名称>

玉川野毛町公園（地区公園）

<所在地>

野毛一丁目 18 番～23 番、25 番

<公園面積>

約 6.6ha

既開園区域（約 3.8ha）

拡張予定地（約 2.8ha）



玉川野毛町公園 位置図

2. 公園づくりの方針

【取り組み方針】 **ともにつくる、ともにあゆむ公園づくり**

【公園整備の方針】

みどりとみずの
ネットワークづくり

歴史・文化を感じられる
空間づくり

安全・安心の
公園づくり

対話による
公園づくり

官民連携

住民協働

<公園計画の進め方イメージ>

3. 協働による設計検討

(1) 将来像をイメージしたバックキャストによる設計検討

令和3年～4年
区民発意の活動
試行と検証



活動から設計を考える

想定

開園（令和7年）
公園が暮らしの舞台となる
活動が本格スタート



活動の舞台に適した公園

見据え

100年後（2122年）
目標が実現した
地域に愛される公園



(2) 玉川野毛町パークらぼ

「玉川野毛町パークらぼ」とは、参加者が活動を考えるアクティブデー、活動の状況を踏まえデザインを考えるデザインデー、そして、公園予定地を一般公開するオープンパーク（公園予定地の開放）で広く活動やデザインを発信し検証する。

このような「やってみる」「形を考える」「区民と検証する」からなるサイクルを繰り返し、皆で試行錯誤しながら公園を育てていく取り組みです。

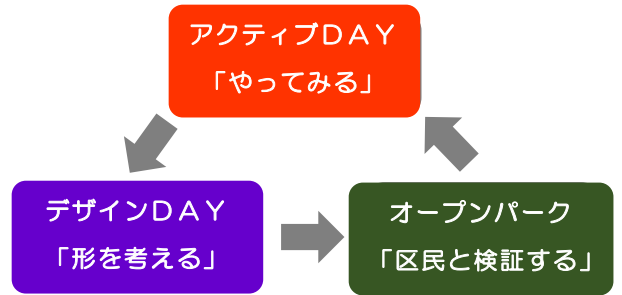
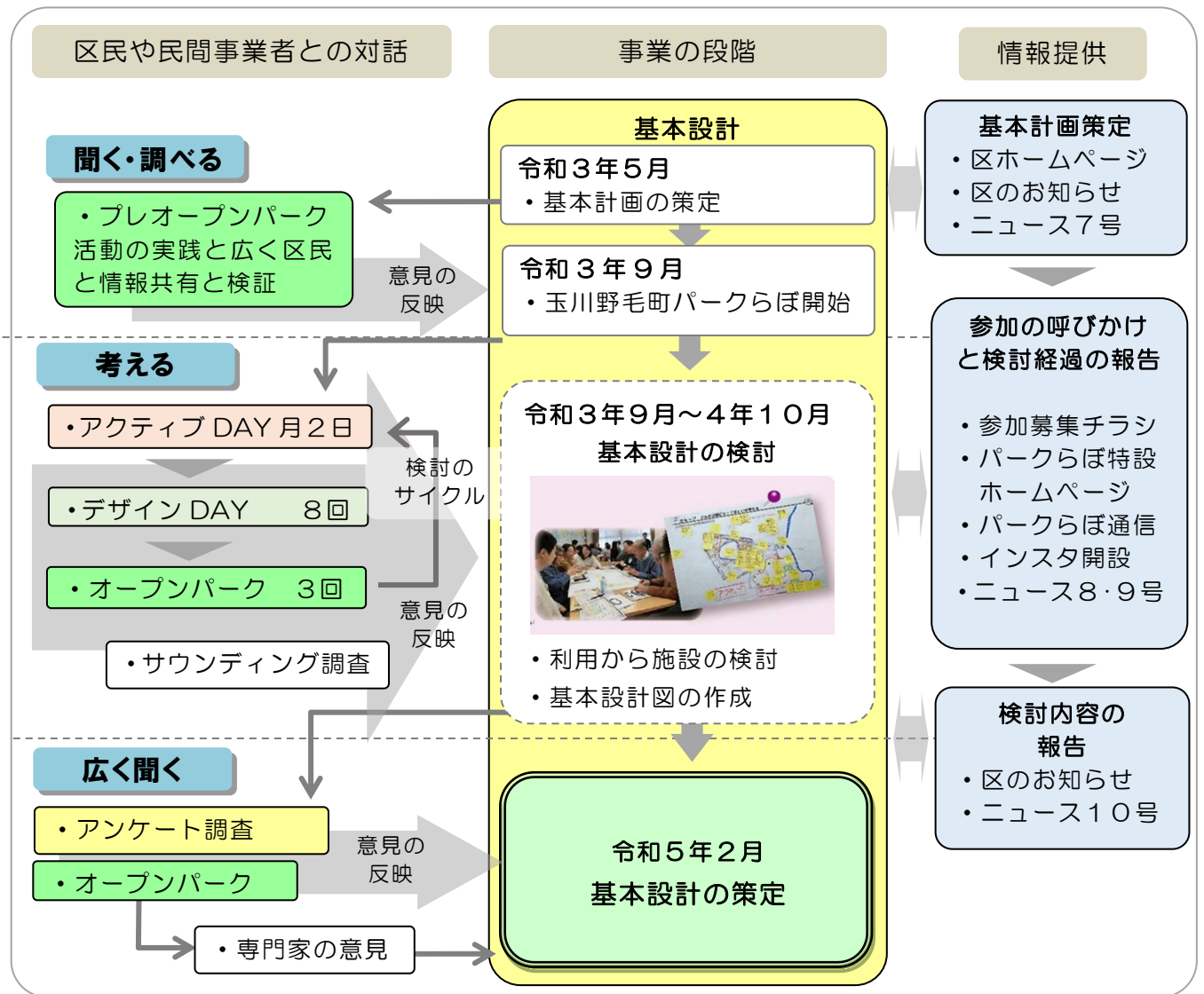


図1 玉川野毛町パークらぼ検討のサイクル

(3) 検討の経過



《対話による公園づくり》 令和3年9月から4年10月までの合計

	回数	日数	参加・来場者数
アクティブ DAY	14回	29日	延べ 527人
デザイン DAY	8回	10日	延べ 359人
オープンパーク	3回	7日	延べ 2632人
公園開放日	11回	23日	延べ 2720人
計	36回	69日	延べ 6238人

※回数と日数が違うのは、1回（同じ内容）で複数日開催したことによる。

公園づくりの呼びかけや検討の経過などの情報提供は、近隣（約14,000世帯）へのニュース配布や区のお知らせ、ホームページやインスタグラム、パークらぼ通信を作成し進めた。

4. デザインコンセプト

(1) 基本設計のデザインコンセプト

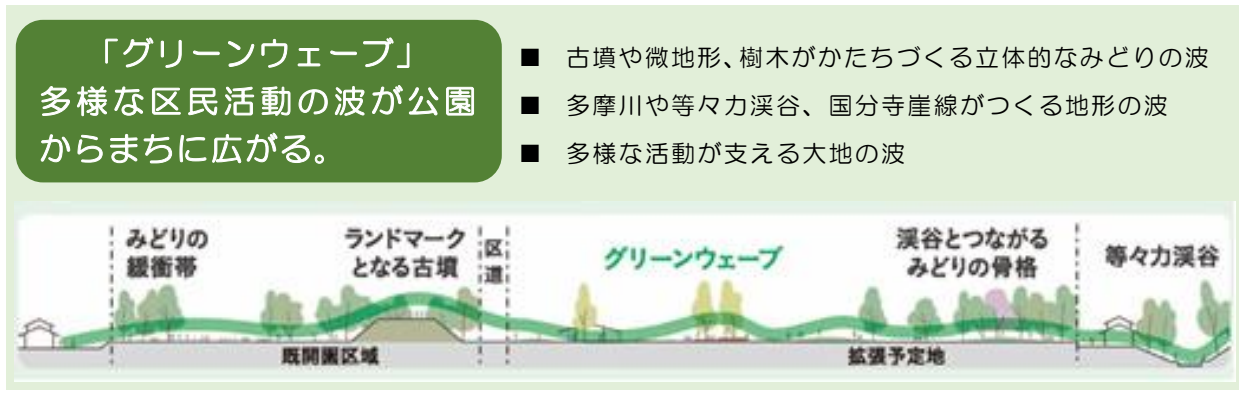


図2 デザインコンセプトのイメージ

(2) 様々な活動を支える環境要素

区民の想いである「つくりこみすぎない公園づくり」を体现するため、環境要素である「樹木の密度（草地の高さ）」「地形の勾配」「大地の状態（テクスチャ）」を組み合わせることで多様な活動を支える空間づくりを行う。一方で、ごく自然で利用にもなじむ、つくりこみを感じさせない質の高い公園空間の実現を目指す。

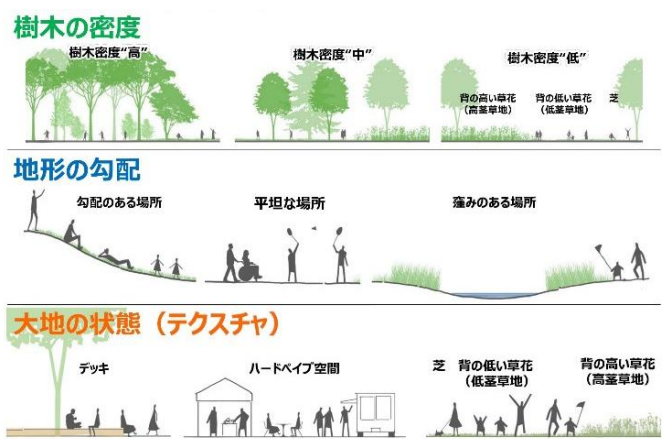


図3 空間を構成する3つの環境要素のイメージ

(3) 玉川野毛町公園の特長となるランドスケープ

古墳や樹木、施設の他、公園外の資源も活かしたここにしかない風景を演出します



図4 空間を構成するランドスケープの要素と関係性

5. 基本設計図



〰〰 拡張事業の範囲

造成、園路広場 集計表

記号	名称	規格	数量	摘要
	マウンド	高さ1~1.5m程度	5か所	
	透水性舗装	透水性コンクリート	6,000m ²	
	階段	踏面35cm以上	1か所	
	草地の広場	野芝、草花	5,000m ²	

ともにつくるともにあゆむ公園づくり

記号	名称	規格	数量	摘要
	便益・サービスの拠点となる施設	約400m ² まで 2階建てまで	1か所	
	公園利用や活動の拠点となる施設	建築面積約640m ² 木造1階建て	1か所	地域住民活動の場
	住民花壇	花、野菜など	各所	地域住民活動の場
	ナーセリー	住民活動用の苗畑	1か所	地域住民活動の場
	公園管理施設	管理用バックヤード	1か所	

みどりとみずのネットワークづくり (拡張予定地の数量)

記号	名称	規格	数量	摘要
	協働の森	育成した苗木を活用	3,000m ²	地域住民で育てる森
	雨庭の森	レインガーデンほか	2,400m ²	
	高木・重高木	武蔵野台地の郷土種	380本	既存、移植樹活用
	中低木	武蔵野台地の郷土種	12,800株	

歴史・文化を感じる空間づくり

記号	名称	規格	数量	摘要
	草地の築山	高さ約1.2m	1か所	
	古墳前広場	芝生	300m ²	

安全・安心の公園づくり

記号	名称	規格	数量	摘要
	防災倉庫	広域用	270m ²	
	防災井戸	ハンドポンプ式	1か所	
	停電時の照明	ソーラー・蓄電池等	13基	既開園区域11基
	停電時誘導灯	ソーラー・蓄電池等	3基	既開園区域3基
	雨水浸透貯留施設	表面、地下	約6,600m ³	公園全体

公園施設

記号	名称	規格	数量	摘要
	デイキャンプ場	かま戸、洗い場	1か所	災害時のかまど機能
	テーブル・ベンチ	木製	26基	
	公園トイレ	ユニバーサルデザイン	3か所	
	水飲み	車いす使用可能	4か所	
	サイン	案内表示等	5か所	
	駐輪スペース	シェアサイクルポート含む	150台	

既開園区域 ※既存の機能を活かし、現状の課題を踏まえ更新する。

記号	名称	規格	数量	摘要
	駐車場	車いす使用者用2台	40台	
	ケヤキ並木	既存並木の保全	1式	
	野毛大塚古墳	階段、斜面保全	1式	
	テニスコート	移設	2面	
	多目的広場	人工芝	1か所	既存面積以上とする。
	屋外プール	大人用、子供用	1か所	
	野球場	軟式、硬式(練習のみ)	1か所	
	子ども広場	ダスト舗装	1か所	表面貯留地
	遊具の広場	複合遊具ほか	1か所	

S=1/1500

<イメージスケッチ>



鳥瞰図（イメージ）

※図中の番号はイメージスケッチの視点方向をあらわしています。



1 エントランス広場から草地の広場へのイメージ



2 草地の広場から古墳方向へのイメージ



3 濃いみどりのイメージ

6. 公園整備のイメージ

(1) ともにつくる、ともにあゆむ公園づくり

①公園利用や活動の拠点となる施設

軽飲食、休憩などの快適な公園利用をはじめ、様々な住民活動、交流、イベントが開催できる建築物とします。また、震災時水害時も想定した施設整備を行います。屋根下は屋内と連続した空間とします。

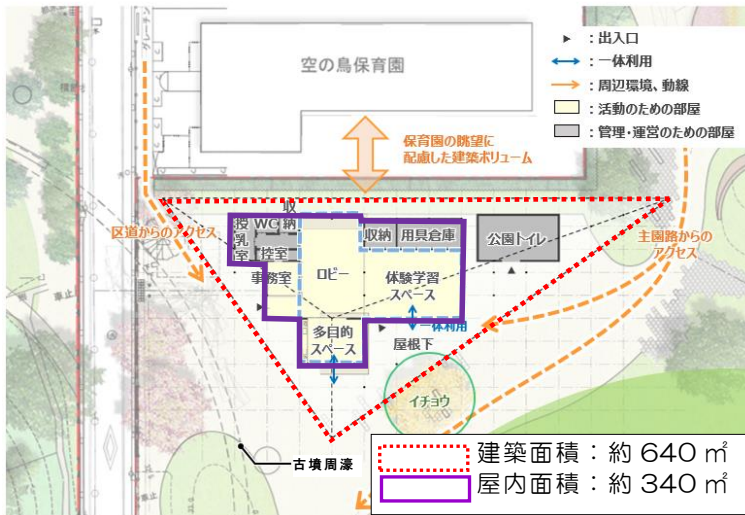


図5 施設と利用イメージ

※キッチンカーやイベントスペースなどを想定した屋根下、広場空間を整備します。



<建物の設え>

- ・体験学習、ボランティア活動スペース
- ・災害時の避難スペース
- ・地域のみどりや文化財の展示
- ・自然光や自然換気の導入
- ・授乳室、親子休憩スペース
- ・SETAGAYA Free Wi-Fi など

②便益・サービスの拠点となる施設

飲食や物販などの施設を導入し、日常的な楽しみを広げます。防災機能、環境性能、地産地消など、地域の特性や公共空間に相応しい魅力を創出していきます。



図6 施設と利用イメージ

<規模・概要>

- ・建築面積約400m²以下
- ・2階建て以下
- ・民間事業者による建設、運営 など

<建物の設え>

- ・公園の景観に調和したデザインコード
- ・飲食、物販を中心とした店舗運営
- ・地域貢献や災害時の連携
- ・有料施設（野球場など）の受付
- ・古墳の存在に配慮した景観 など

【官民連携手法の導入】

「①公園利用や活動の拠点となる施設」及び「②便益・サービスの拠点となる施設」は、世田谷区で初となる公募設置管理制度（Park-PFI）を想定した公募を行い、民間活力の導入を図ります。事業者には、地域の課題（買い物不便地域など）を示し、公共的な価値を高める提案を求めます。

(2) みどりとみずのネットワークづくり

「みどりのエントランス」や「草地の広場」「明るいみどり」「濃いみどり」といった多様なみどりを

皆でつくり、育てます。既開園区域や等々力溪谷と連坦した生き物拠点を作ります。



① 生き物の多様性を育む植栽



親しみやすい樹木を主体とした広がりのある草地の原っぱの空間



既存イチョウなど親しみやすい樹木や落葉樹を主体とした疎林



武蔵野台地の落葉樹を主体とした里山的なみどり



等々力溪谷とつながる常緑落葉混交のみどり



図7 多様な植栽のイメージ

② 区民参加で育むみどり

区民の多様なみどりへの関わり方が100年先のみどりの風景をつくります。どんぐりから苗木をつくり、将来の森を育みます。また、公園内の資源を活用した堆肥や土づくりなどを行い、自然の循環を促します。



どんぐりで森を育てる



ウェルカムガーデン

③ 水循環とグリーンインフラ

公園内の雨水を蓄える森と雨庭（表面貯留）などは、雨水を地下に供給し、崖線のハケや等々力溪谷の湧水として、地表に再び現れ溪谷の湿潤で多様な環境を形成します。

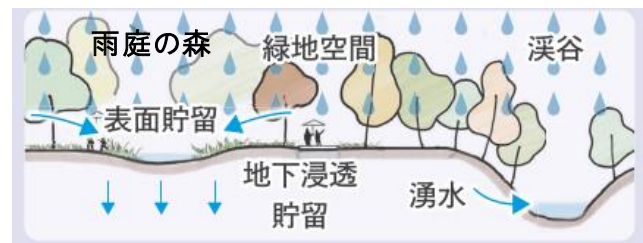


図8 水循環のイメージ

- 雨庭（レインガーデン）は濃いみどりの区域内（雨庭の森）に整備します。雨水の貯留・浸透による景観の移り変わりや鳥や生きもの水浴び場となります。
- 地下水の涵養を促し、雨水の表面貯留を各所に配置します。

(3) 歴史・文化を感じられる空間づくり

野毛大塚古墳に立ち、触れ、歴史を体感できる長所を活かし「地域の歴史を学び、伝える場」とします。

また、「古墳とのつながりを意識した空間づくり」を行います。



① 地域の歴史を学び、伝える場

- ・「公園利用や活動の拠点施設」に野毛大塚古墳をはじめ周辺の遺跡に関する展示（解説、写真、映像など）を設置します。
- ・野毛大塚古墳や等々力溪谷をはじめ周辺の遺跡や国分寺崖線のみどりといった周辺の地域資源の散策に寄与するサインを設置します。
- ・展示物やサインに※デジタルミュージアムと連動した2次元コードを添付します。
- ・玉川野毛町パークらぼや文化財ボランティアなどと連携し、野毛大塚古墳やその周辺のガイドウォークなどを実施します。

※世田谷の歴史・文化に関する情報が見られるサイト



図9 ボランティアによるガイド

② 古墳とのつながりを意識した空間づくり

④公園の顔となるエントランスから古墳までつながる空間とします。

⑤古墳を中景に据え、富士山への遠景、草地の近景から構成される広がりのある空間をつくります。草地広場と古墳の間の区道は、築山により視覚的に遮り一体的な景観とします。

⑥古墳周濠の凹地から帆立貝形古墳の全体像を楽しめる空間とします。



図10 古墳とのつながりイメージ

③ 古墳の保全

- ・人の立ち入りや雨水による浸食を防ぐため墳丘斜面を保全します。
- ・古墳のガイドや散策利用を想定し、階段園路を再整備します。
- ・古墳の保全のため遺構に影響のない方法により樹木の撤去を検討します。



図11 野毛大塚古墳南側より撮影



(4) 安全・安心の公園づくり

① 地域防災に役立つ施設

- ・地域の防災活動が行えるオープンスペース（広場空間）を確保します。
- ・緊急車両や大型車両等の乗り入れ可能な出入口や通路を確保します。
- ・多用途で使用できるテントの備蓄や近隣施設などと連携した避難スペースの確保を検討していきます。

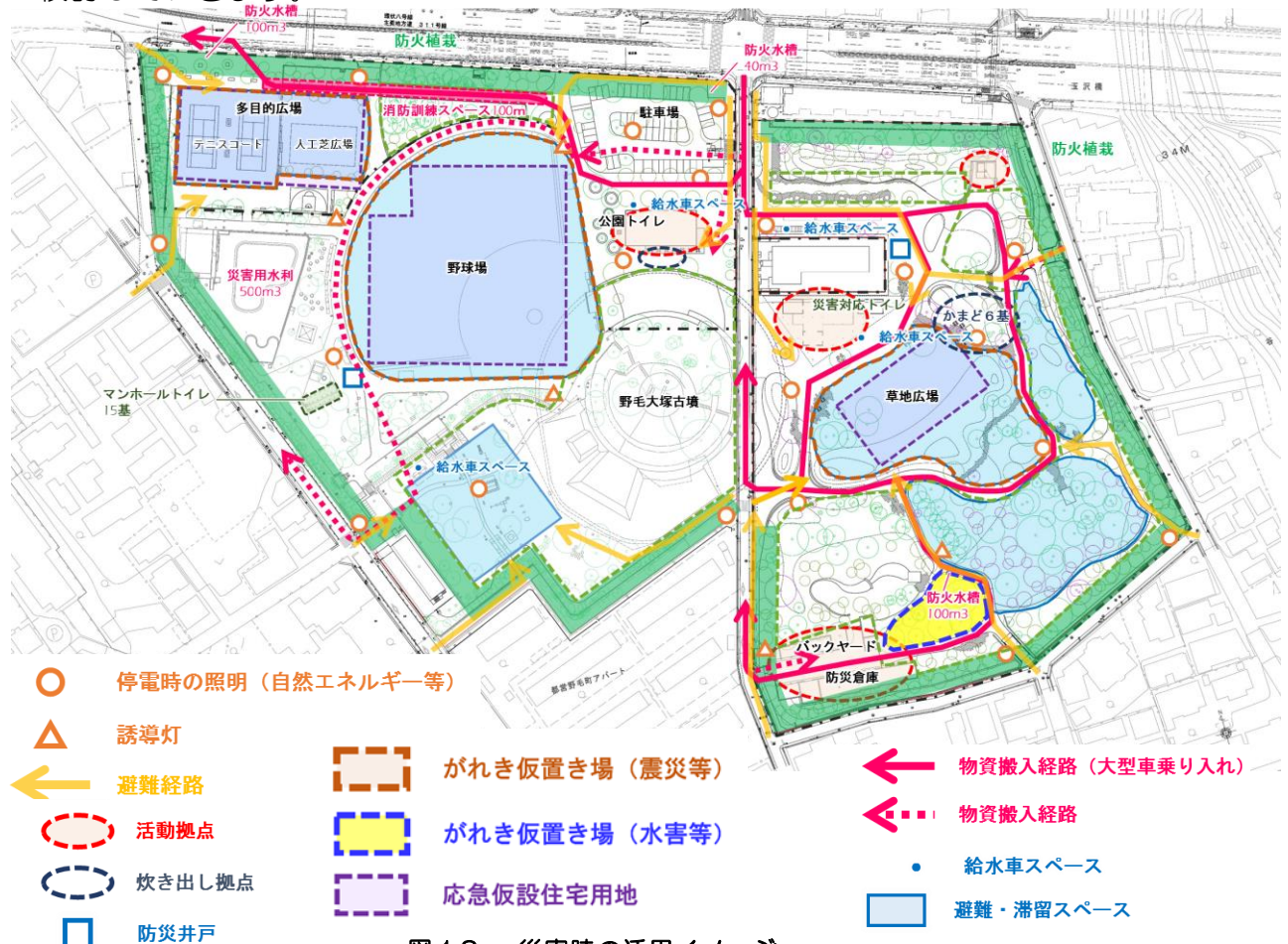


図12 災害時の活用イメージ

② 震災対策

- ・発災時、避難に役立つ停電時照明（自然エネルギー照明等）を24基設置します。
- ・応急時に役立つ防災倉庫やかまど、防災井戸など設置し、がれき仮置き場、物資搬出入スペースを確保します。
- ・復旧・復興に向けて、応急仮設住宅の建設予定地やオープンスペースを確保します。

《震災対策》

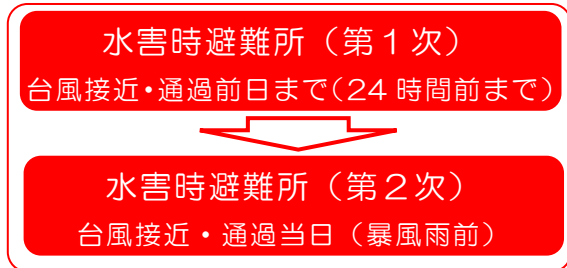
段階	利用想定	施設
発災～3日目 《緊急対策》	避難・滞留・集合	停電時照明：24基、誘導灯：6基 避難スペース：19,400㎡ (収容人数：19,400人・1人/㎡)
発災4日～3週間 《応急対策》	炊き出し・給水 物資搬出入スペース がれき仮置き場	活動拠点：4か所、かまど：6基、防災井戸：2か所、物資搬出入スペース・がれき仮置き場：13,700㎡ 搬出入経路の確保（大型車）3経路
発災3週間以降 《復旧・復興対策》	応急仮設住宅 公園機能	活動拠点：4か所 仮設住宅用地：19,400㎡、150棟 オープンスペース・子どもの遊び場：21,000㎡

③ 水害対策

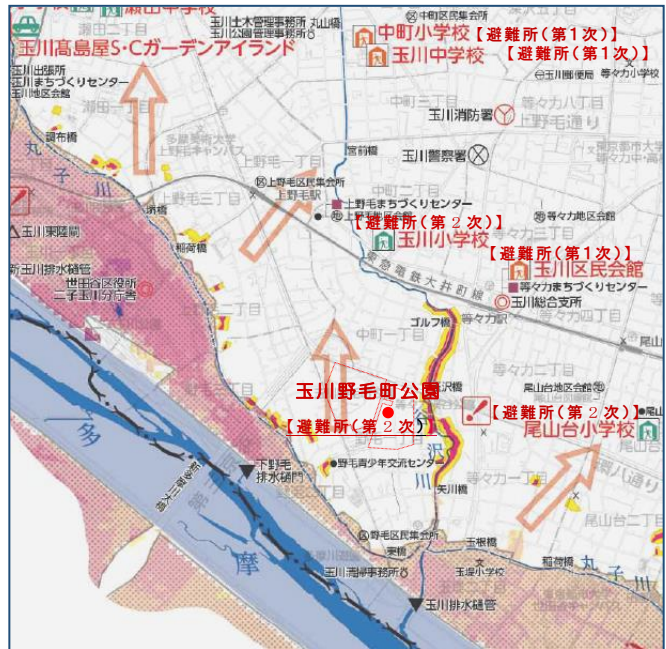
台風等の水害を想定し、浸水が想定される地域からの避難の受け入れや水害発生後のがれきの収容を想定します。

【水害時避難所開設の考え方】

避難所は2段階で開設します。



多摩川洪水浸水想定区域内に居住する方で早めに避難する方を受け入れるため、洪水浸水想定区域外の小中学校等を水害時避難所（第1次）として開設することになっています。また、台風接近・通過当日は水害時避難所（第2次）を開設することになっています。



<洪水・内水氾濫ハザードマップ（多摩川洪水版）抜粋>

<玉川野毛町公園周辺>

- ・水害時避難所(第1次)：八幡小学校、中町小学校、玉川中学校、玉川区民会館 など
- ・水害時避難所(第2次)：玉川小学校、尾山台小学校 など

【玉川野毛町公園の水害時活用】

・水害時避難所（第2次）としての活用

公園利用や活動の拠点となる施設を水害時避難所（第2次）として活用します。なお、優先的に受け入れる避難者の条件設定などは、引き続き検討していきます。

・駐車スペースとしての活用

浸水想定区域から近く国分寺崖線上の公共施設（公園）であることを生かし、水害時避難所(第1次、第2次)を補完する形で、一時避難施設（車中避難）を想定した駐車スペースとして活用します（約100台分のスペース確保を想定）。

・その他の活用

令和元年台風19号の際にがれき置き場として活用されたことを踏まえ、車両の搬入とがれきの仮置きが可能な場所をあらかじめ設定します。

<水害時収容想定>

用途	面積	収容可能数量（想定）
建物（屋内）避難	約190㎡	約115人（3.3㎡/2人で算定）
一時避難施設（車中避難）	約3500㎡	約100台
がれき仮置き場	約680㎡	約680m ³ （仮定積み高1m）

※各用途における公園の管理運営事業者の協力等について引き続き検討していく。

④ 豪雨対策

玉川野毛町公園全体で、草地や樹林地をいかし表面貯留、地下貯留、浸透などを効果的に組み合わせた豪雨対策施設を導入します。

≪雨水流出抑制：100mm/hr≫

主な雨水対策施設		貯留浸透量
植栽	芝生や植栽による自然浸透	2,000m ³
雨水浸透施設	透水性舗装、浸透側溝、雨水浸透管、浸透ます	1,000m ³
貯留施設	地下貯留	1,600m ³
グリーンインフラ	緑溝、レインガーデン（雨庭）、表面貯留	2,000m ³
計（既開園区域＋拡張区域）		6,600m ³

（５）既開園区域の改修（拡張事業区域外）

既開園区域の機能を維持し、老朽化や現状課題を解決する改修を行います。

施設	課題	対応方針
野球場	ボールの飛び出し ダッグアウトの水たまり	防球ネットの更新 雨水排水施設の設置
	硬式野球の練習ができない	ファールボール対策、ケージの購入と保管場所
テニスコート	プレイ空間（バックライン（縦軸））が狭い	公式サイズに準拠したプレー空間の確保
屋外プール	老朽化、屋内が暗い	老朽化に伴い、年間を通じた魅力向上に向けた改修を検討
こども広場 遊具の広場	水はけが悪い 遊び場と動線の交錯	広場の水はけの改善、安全な施設配置とインクルーシブの視点を導入し改修
園路	通りぬけ動線の確保	通りぬけ動線と施設利用者動線の分離
野毛大塚古墳	墳丘の浸食 階段の劣化	墳丘斜面の保護と古墳景観の保全
多目的広場	ボールの飛び出し 利用者が多い	フェンス設置による飛球対策 必要面積の確保
駐車場	駐車場台数が少ない	40台程度に増数 （災害時を除く大型バスの駐車は既開園区域内で検討する。）

（６）区道と公園の一体性に配慮した整備

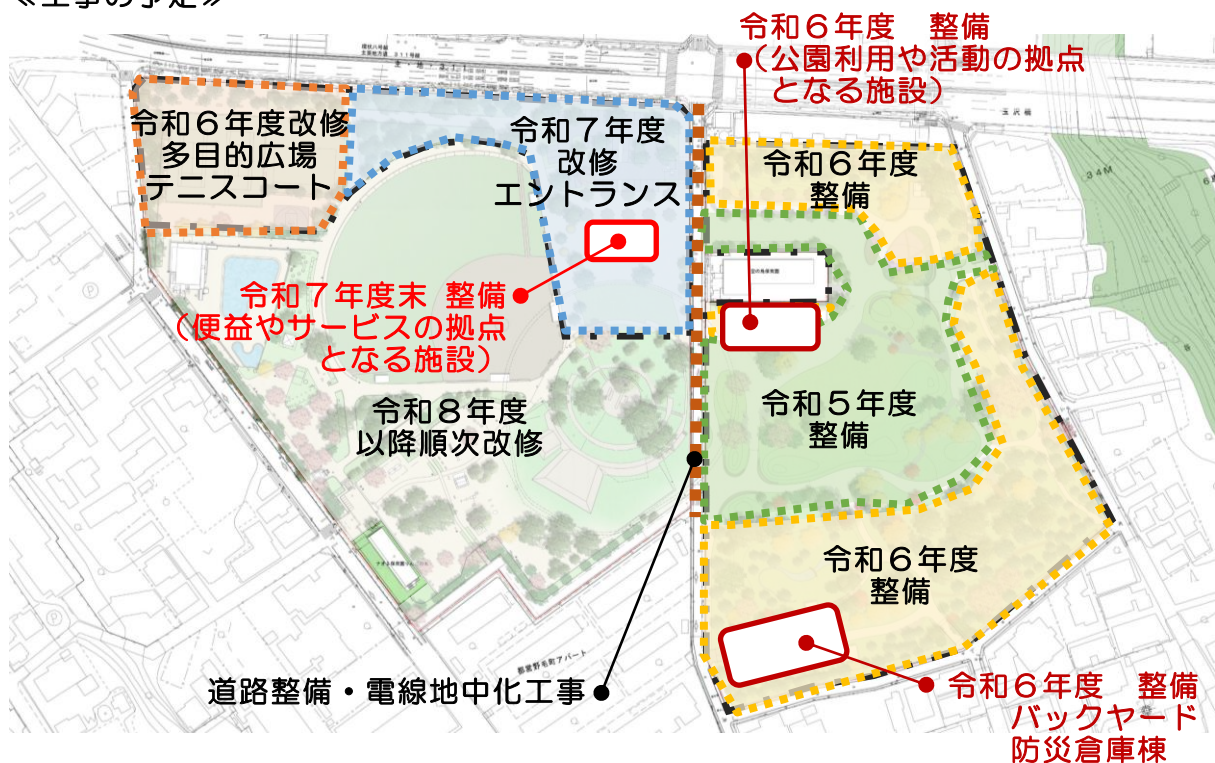
- ・歩道の整備、安全な横断、景観にあった設えに配慮した道路整備を検討します。
- ・野毛大塚古墳の周濠範囲を踏まえて、無電柱化の検討を進めます。
- ・風致地区内の景観に合った快適な歩行者空間を整備します。また、玉川野毛町公園を拠点に等々力溪谷や多摩川河川敷など周辺の魅力を楽しみながら散策できるウォーカブルな空間づくりを進めます。

7. 今後のスケジュール（予定）

区域	拡張区域		既開園区域		
工事種別	公園工事	建築工事		公園工事	建築工事
施設	公園施設	公園利用や活動の拠点	バックヤード 防災倉庫	公園施設	便益やサービスの拠点
令和5年度	第1期工事 一部開園	事業者の公募 設計	設計	設計	事業者の公募
令和6年度	第2期工事 開園	整備工事	整備工事	多目的広場 テニスコートの 移転工事	設計・調整
令和7年度	—	供用開始	供用開始	エントランス	整備工事 供用開始
令和8年度 以降	—	—	—	順次改修工事	—

※区民や事業者と連携した管理運営を行うため、開園後も見据え公園の管理運営に関するワークショップなどを行い検討を進めます。

《工事の予定》



《編集・発行》

世田谷区みどり33推進担当部公園緑地課

〒158-0094 世田谷区玉川1-20-1 二子玉川分行舎

電話：03-6432-7910/FAX：03-6432-7989

